


2022

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
アート・コミュニケーショングループ

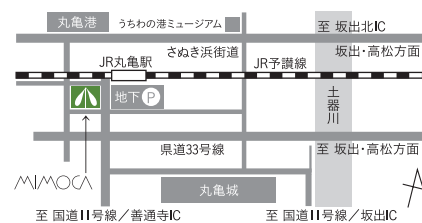
「こどもMIMOCA」「プラスMIMOCA」

2022記録集



丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
公益財団法人ミモカ美術振興財団

〒763-0022 香川県丸亀市浜町80-1 (JR丸亀駅前)
TEL:0877-24-7755 www.mimoca.org



ご挨拶

2022年度の「こどもMIMOCA」「プラスMIMOCA」事業も無事終了し、昨年に引き続き記録集を発行する運びとなりました。

今年度は開館以来30年間、子どものためのアート教育に力を入れてきたことと、市民に親しまれる文化芸術の拠点として活動してきたことが高く評価され、現代美術館として初めて第44回「サントリー地域文化賞」を受賞しました。

少子高齢化社会の進行や、孤独や孤立が際立つ社会問題の深刻化など、社会全体が大きな転換期を迎える近年、経済とは違った方向から人々の生活を豊かにするアートの役割は、ますます重要となっています。

アートにおいては、身体や性、職業や肩書き、国籍の垣根を超えた新たな交流が生まれる。そして、個々の感性が育まれることで、丸亀市全体が多様性に寛容で潤い豊かな文化的なまちになる

この目的を実現するために、猪熊弦一郎が大切にしていた「子どものためのアート教育」を軸に22年度も多彩なプログラムを展開してまいりました。

多様な人が集まり、新しい価値に出会える場としてアート・コミュニケーショングループが人々と対話を重ね、答えを模索しながら運営してきた1年の歩みを、この記録集にまとめました。

最後になりましたが、各プロジェクトにご参加いただきました皆様、プロジェクト実現に惜しみないご尽力をいただきました、作家や講師の皆様、地元企業を始めとする地域の皆様から感謝申し上げます。

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館



「子どもたちの豊かな感性と創造力を伸ばし育む」
という猪熊弦一郎の遺志を受け継ぎ、
年間を通して子ども向けプログラムを実施します

未来への投資 —— これからを生きる子どもたちと向き合う

「こどもMIMOCA」は“子どもたちの豊かな感性と創造力を伸ばし育む”という猪熊弦一郎の遺志を受け継ぎ、年間を通して子ども向けプログラムを実施しています。猪熊は“子どもは希望であり、喜びであり、想像力である”^(注1)とも語っています。猪熊が想いを馳せた未来である現在、果たして日本は子どもにとって明るく豊かな社会であると言えるでしょうか。日本の子どもの7人に1人は相対的貧困^(注2)と言われ、先進国の中でも高い数字となります。虐待やいじめも深刻化しているなか、今の子どもたちには学力だけでは解決できない社会を「生き抜く力」が必要とされています。学校現場では2024年度から行われる大学入試改革に向け、2020年度より小学校で「新学習指導要領」が全面実施されています。これまでの「知識や技能」に加え、「学び合う力、人間性」や「思考力・判断力・表現力」等といった「非認知能力」の育成が求められるようになりました。

「こどもMIMOCA」では、この教育の流れを汲みながら、表現活動を通して非認知能力を高めることを目指してプログラムを企画・実施してきました。

まず、造形スタジオでのワークショップでは、単にものを造る、絵を描くことに終止しないようスタッフ同士で協議しながら内容を考えてきました。

例えば、「Color MIMOCA!」では同じ空間にいらなくても描いた人々の時間が積み重なって一つの作品となるような表現活動にしました。造形スタジオの床一面に板を敷き、白いペンキを塗ることで巨大キャンバスに見立てて自由に絵を描くというシンプルな内容ですが、画材を統一することで約200人もの参加者が描いた絵が、一つの美しい平面作品となるようにしました。もう一つの工夫として、一般参加者を受け入れる前に、普通寺希望の家の作家たちに真っ先に絵を描いてもらいました。既成概念を超えた表現に触発された一般参加の子どもたちは、家や学校では見られない大胆な線や形を描き、その表現力と体力に保護者が驚いていたほどです。また、逆さから物事を考えることで新たな価値を見出すダンスカンパニー・んまつーポスを招聘し、美術館でのワークショップを軸に、市内の施設や学校を訪問して“正解のない授業”を展開していきました。生きたアーティストと交流することで「違った見方があって面白い」「他の人の考えも受け入れてみよう」といった反応が生まれました。

美術や音楽、ダンスといった表現活動を取り入れ、未就学児から10代まで、体力も経験も異なる子どもたちと創作活動をしてきました。「どう言葉にするか」「どんな振り付けをしようか」と教科書にはない問いに向き合い、感じ、考えた時間こそ重要です。

「サントリー地域文化賞」でも美術館の取り組みは「未来への投資」と評されました。ほんの2時間のワークショップでも、子どもたちがより善く生きるための創造力を身につける一端を担っていると信じて、これからも私たちは子どもたちに向き合っていきます。

奥本 末世（丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 アート・コミュニケーショングループ担当長）

(注1)「教えない教え方をされた猪熊先生」荒井茂雄、「猪熊弦一郎のおもちゃ箱 やさしい線」p243、2018年3月3日小学館発行

(注2)「2019年 国民生活基礎調査の概況」(厚生労働省)参照

みんなでつくろう! 宇宙都市

宇宙に強い関心を抱き、独自の宇宙を描いた猪熊弦一郎。
「宇宙にはどんな世界が広がっているかな?」と想像力を膨らませ、
スタジオに大きな宇宙都市を創り上げました。



段ボールや
牛乳パックなど
身近にある材料が、
宇宙マンションや
見たことのない生き物に
大変身!

左官職人になろう! 2022

生活する上で欠かせない“壁”。

左官職人にて使いを実演で教えてもらいながら、壁作りを体験。
4色の塗材の中から好きな色を選び、こてを使って、板に塗材を塗っていきました。
一色だけで塗り尽くす、何色か使ってグラデーションのように塗る、など
自分だけの壁作りに挑戦しました。



5人1組で制作した
大きな“壁”は、左官職人
とのコラボレーション!
同じ材料・道具を使っても
全く違った迫力のある
作品が完成

〔協力〕

■ 香川県左官業組合連合会

香川県の左官工事業団体として、定期総会や左官勉強会など左官技術向上や情報を共有。また、左官について知っていただくワークショップを主催するなど、日本の伝統文化である「塗り壁」を未来に受け継いでいく役割も担っている。

■ 四国化成ホールディングス株式会社

1947年に丸亀市で誕生。現在では、世界を舞台に化学品と建材の2つの事業を展開。「独創力で、“一歩先行く提案”型企業へ」を掲げ、独創的なアイデアで社会課題を解決し、世界をリードする企業となることを目指す。2023年1月より持株会社体制へ移行し、各事業を分社化、新生四国化成グループとしてスタートを切った。

瀬戸内国際芸術祭2022 記念事業
“MIMOCA×tupera tupera 巨大すごろくプロジェクト” 関連企画

すごろくマスづくり ワークショップ

tupera tuperaワールドでマス作り!

丸亀市通町商店街に展示する巨大すごろくのマスの原画を作家と一般参加者で作りました。

参加者は子どもから大人まで幅広い年代の人たち。まず参加者それぞれが自分のマスの司令を決めるキーワードをくじ引きし、キーワードから連想して司令を考えました。

そして、画用紙を切り出して台紙に貼り付けました。

tupera tuperaが一つのアート作品として仕上げるために、

画用紙は予め決められた13色の中から選ぶとし、技法も切り絵で統一しました。



〔講師〕

■ tupera tupera (ツベラツペラ)

亀山達矢と中川教子によるクリエイティブユニット。絵本やイラストレーションを中心に、様々な分野で幅広く活動している。絵本に「しろくまのパンツ」「パンダ銭湯」「かおノート」「やさいさん」など著書多数。NHK Eテレの工作番組「ノージーのひらめき工房」のアートディレクションも担当。2019年に第1回やなせたかし文化賞大賞を受賞。



切り絵ならではの
紙の重なりで出来る表現と、
「うどん」や「お遍路さん」など
土地の特性が盛り込まれた
キーワードによって、
ユニークなマスが完成



Color MIMOCA!

造形スタジオの床が、大きなキャンバスに変身!
使う画材はマジックペンと色鉛筆に限定し、描くスペースがなくなると
ペンキで薄く塗り重ね、その上から描いていくことを繰り返すことで、
さまざまな人の色と形が積み重なっていきました。
ペンひとつで自分だけの“colors”を生み出すことはいざ挑戦してみると難しく、
参加者は常識の世界を飛び越えることを求められました。



歩きながら線を
伸ばしたり、自分自身を
模ったりと巨大キャンバスは
可能性が無限大!



〔協力〕

■ 普通寺 希望の家

社会福祉法人 希望の家が運営する施設。障害の有無を超えて、希望の家に関わる誰もが地域や社会に自分たちの取り組み、存在を通して新しい価値を提示していく活動をしている。メンバー達と共に社会に貢献できることを探り、日々取り組んでいる。



描いた後は脚立に上って
 キャンバス全体を見渡し、
 みんなで創り上げた
 1つの作品を鑑賞



工学博士と建築をつくろう

香川大学名誉教授の松島工学博士を招聘し、建築作りに挑戦!

午前は高校生以下を対象に、割りばしと輪ゴムの2種類の材料を使って耐力のある橋を作りました。2人1組となり、三角形を繋ぎあわせてトラス橋を完成させ、最後はペットボトルを何本まで吊り下げることができるか、耐力コンテストを実施。

協働力と競争力を刺激するプログラムです。

午後は大人も対象に、ケント紙とカッターを使って折り紙建築を作り、色紙やシールで個性あふれる建築物が出来上がりました。



使用型図:国立西洋美術館 ル・コルビュジェ
©Aya CHATANI
茶谷正洋・茶谷亜矢「折り紙建築 続・世界遺産をつくろう!」彰国社、2019
協力:有限会社オリガミックアーキテクチャー



折り紙建築作りでは、空や木、噴水や建物に掛かるカーテンのようなオブジェで飾り付け。風景を考えることも含めて建築作りを楽しむ



瀬戸内国際芸術祭2022 記念事業
“MIMOCA×tupera tupera 巨大すごろくプロジェクト” 関連企画

オーケストラメンバー募集!

「スゴ!すごろくプロジェクト 丸亀市通町商店街編」の
完成お披露目をお祝いするためにキッズオーケストラを編成!
ミニトロンボーンとフルートをパイプやクリアファイルなど身近な材料で作り、
自分だけの楽器を作りました。

年齢も音楽経験もバラバラの子どもたちが、
瀬戸フィルハーモニー交響楽団の指導のもと、楽器の練習を重ね、
オーケストラメンバーとして一体となりました。



〔講師〕

■瀬戸フィルハーモニー交響楽団

定期演奏会をはじめ自治体、企業などへの出張演奏や県内外の文化団体との共演など多彩な演奏活動を展開している。特に小・中学校を訪問しての音楽教室で音楽の楽しさを体感できる企画を盛り込み、音楽人口の拡大に取り組む。





オープニングセレモニーの様子



実際に音の出る楽器が
手作りで出来る驚きと、
その楽器を手に大勢の方々の
前で演奏出来た経験は
子どもたちの大きな力に！

レッツJUMP!! キッズパフォーマー募集!

10月10日はスポーツの日!

スポーツといえば“んまつー波斯”、スポーツの最高峰の祭典といえば「オリンピック」!

ワークショップでは「オリンピック」をテーマに、芸術的で美しい

アスリートの動きを研究し、模倣し、オリジナルのパフォーマンスへと昇華させました。

そしてMIMOCA開館31周年記念日にゲートプラザで“んまつー波斯”と一緒に

キッズパフォーマーとして2回の上演をやり遂げました。



〔講師〕

■んまつー波斯

2006年に結成、逆さから物事を考えることで新たな価値を創造するダンスカンパニー。これまでに15カ国40都市（エストニア、ルーマニア、香港等）で作品を招聘・上演。国内では、アート空間に「体育」（からだを育む思想）を展示している。宮崎市に「公立ではない公共」のコンテンポラリーダンス専用劇場（CandY）を設立（2019.3）。





お揃いの
ユニフォームを着て、
一体感のある力強い
パフォーマンスを披露し、
観客を魅了

カッコいいアスリートの
動きを完璧に真似て、
気分はオリンピック選手！



ゲートプラザでの上演の様子



ふるふる!フルイドアート ~自分だけの色と模様をつくらう~

絵の具と洗濯のりだけで不思議な模様生まれる!
洗濯のりを混ぜたアクリル絵の具をキャンバスにたらして、傾けたり、
ストローでフーフー息を吹きかけたりすることで、オリジナル模様をつくりました。
絵の具の流動性だけで生み出す表現技法に、子どもたちの創造力が刺激されました。

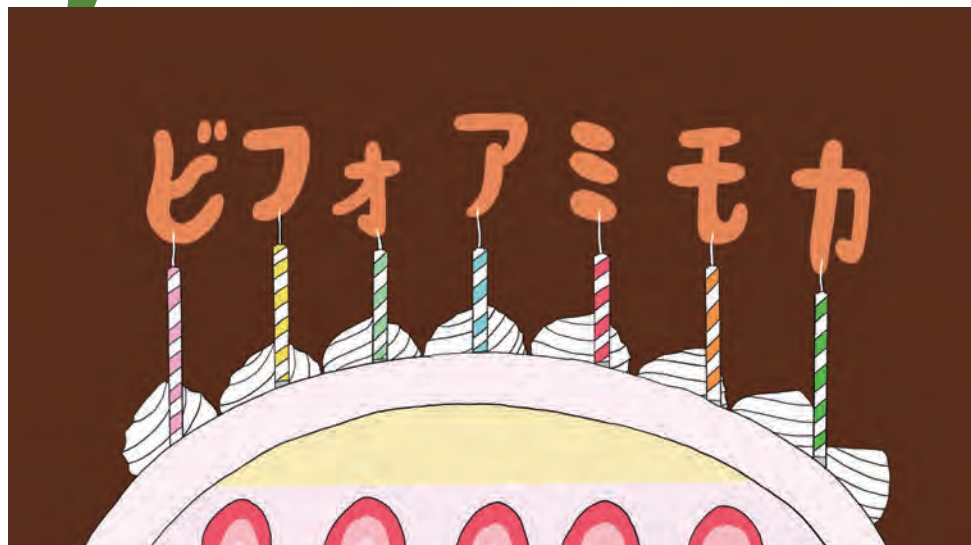


好きな色を選んで
大きなカップに入れて
キャンバスへ。
こんな色になるなんて!
驚きと発見の連続



MIMOCA × 井上涼 アニメーション「ビフォアミモカ」

美術館での過ごし方、猪熊作品の魅力を伝えるため、
アーティスト・井上涼と美術館で協議して
アニメーションを制作し、YouTubeにて公開しました。
MIMOCA来館を明日に控えたある女性の、
漠然とした不安からストーリーが始まります。



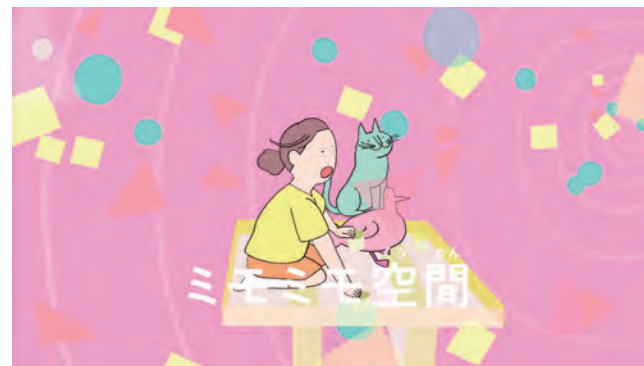
〔作家〕

■ 井上涼

兵庫県生まれ。2007年に金沢美術工芸大学デザイン学科視覚デザイン専攻卒業。卒業制作「赤ずきんと健康」がBACA-JA2007佳作受賞。2013年より「びじゅチューン!」(NHK Eテレ)放送開始。

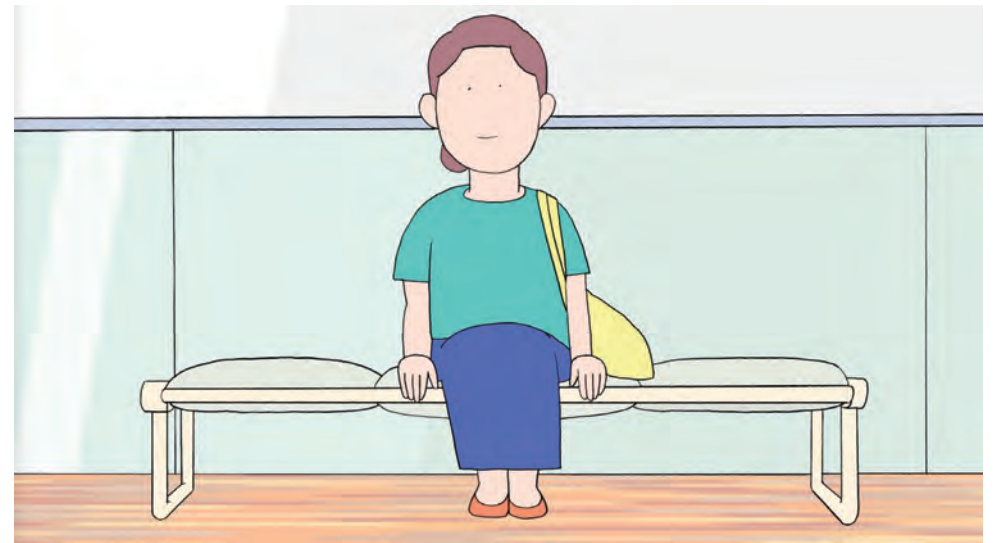


“美術館とか滅多に行かないから着て行く服に悩んでいるってわけ”





“だったら身構えなくても大丈夫。
ミモカをつくった猪熊弦一郎は
そう望んでいるのですからー”



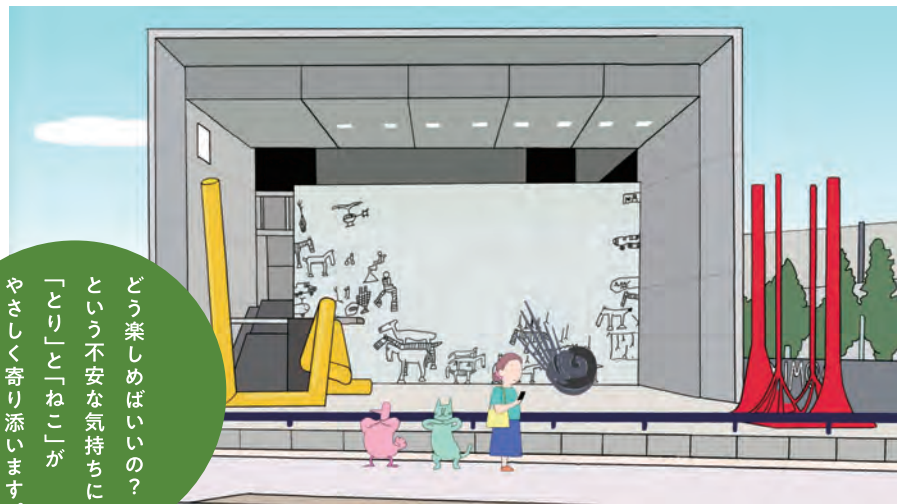
アニメ画像は全て©INOUE Ryo



「ピフォアミモカ」完成記念トークイベント

井上涼さん

美術鑑賞する場面をアニメの中に作るの、どうやっていいのかわからない難題でした。
自分なりの答えをつくったつもりです。皆さんにどう思われるのかということ、
これから先、長い時間をかけてみていきたいと思っています。



どう楽しめるの？
という不安な気持ちに、
「とり」と「ねこ」が
やさしく寄り添います。





+ MIMOCA

「心の病院」として、人々の明日への活力を与える場所として、

美しいものや表現に出会うことで

新しい交流と価値を見出すプログラムを提供する事業。

人々の暮らしの中にMIMOCAがプラスされていくことを目指します

新たな関係性を模索——“地域に愛される美術館”の深化

「プラスMIMOCA」では「心の病院」として、美しいものや表現に出会うことで新しい交流と価値を見出すプログラムを提供しています。人々の暮らしの中にMIMOCAがプラスされていくことで“心の豊かさ”と“明日への活力”が育まれることを目指しています。この事業では完成した作品ではなく、作品が生み出されるまでのさまざまな関わりやプロセスに注力しました。

「スゴ!すごろくプロジェクト 丸亀市通町商店街」では、クリエイティブユニット・tupera tuperaが丸亀市民を中心とした一般参加者とともにすごろくのマスを作りました。約80人もの一般参加者が作ったマスを、無地のマスも組み込みながら一つのすごろくに仕立てるというユニークな発想で、実際に巨大すごろくで遊ぶことができる体験型のプロジェクトです。商店街ではすごろくで遊ぶ人々で賑わい、商店街の人々はお菓子をプレゼントするなど、自分たちのアイデアでおもてなしをしてくれました。商店街の人が来場者に作家が商店街に来たときの様子や、すごろくの作品について説明する姿も見られました。アートプロジェクトを通して多世代の交流が生まれたと言えるでしょう。

NHK高松放送局と協同した「かがわ絵顔プロジェクト2022」では、コロナ禍での一人ひとりの心を見つめるべく“紙いっぱい広がる未来の顔”をテーマに絵とメッセージを募集しました。上手く描く、特別なエピソードを考えることは重視しませんでした。絵を描くことが苦手でも、自分の気持ちを表現する術を知らずとも、自分なりに“顔”に向き合うことを重視しました。その過程で新たな自分に気づき、前向きな気持ちになってほしい。そのような思いでプロジェクトを推進しました。絵を描くことで何年後かに気持ちが揺さぶられることがあるかもしれません。世界観が変わる人が出てくるかもしれません。それこそがアートの体験であると考えています。

現在、ICOMプラハ大会(2022年)では博物館定義が次のように改正されました。「博物館は、社会に奉仕する非営利の常設機関であり、有形及び無形の遺産を研究、収集、保存、解釈し展示する。一般に公開された、誰もが利用できる包摂的な博物館は、多様性と持続可能性を促進する。倫理的かつ専門性をもって、コミュニティの参加とともにミュージアムは機能し、コミュニケーションを図り、教育、楽しみ、考察と知識の共有のための様々な体験を提供する。」(注3)

文化芸術は限られた人々のためにあるのではなく、誰もが創造し享受する権利があります。猪熊弦一郎がMIMOCAに託した「美術館は心の病院」という理念は、今まさに全世界に必要な指針であり、次世代に継承すべきものです。

今後もアートを通して、MIMOCAと地域との新たな関係性を築き、より一層「地域に愛される美術館」へと深化させていきます。

奥本 末世 (丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 アート・コミュニケーショングループ担当)

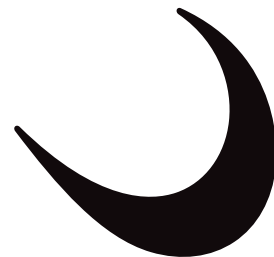
(注3) ICOM日本委員会訳

瀬戸内国際芸術祭2022 記念事業

MIMOCA×tupera tupera スゴ!すごろくプロジェクト 丸亀市通町商店街編

美術館とtupera tuperaによる、商店街アートプロジェクト。

一般参加者と美術館で、すごろくのマスとなる原画を作り、1mのマスへと巨大化させ、丸亀市の中心街に位置する通町商店街の約300mに及ぶ道に展示しました。





商店街の道を盤にして、
すごろくを楽しみながら
ゴール(丸亀城方向)を
目指す!



●企画監修:tupera tupera ●メインビジュアル・空間デザイン:鈴木モトフミ ●造形・展示設置ディレクション:カミイケタカヤ
●巨大すごろく印刷:研精堂印刷株式会社

NHK かがわ絵顔プロジェクト2022

NHK高松放送局と協働し、コロナ禍という“100年に1度の危機”の現代を生きる人々の想い、心的心声を、アートを通して紡ぎ出すプロジェクトです。
いま、この時代に描きたい顔は何か？ 誰を想い、どんな未来を描いているか？
描かれた作品のエピソードを添えてもらうことで、
さまざまな人の心を見つめる機会となりました。

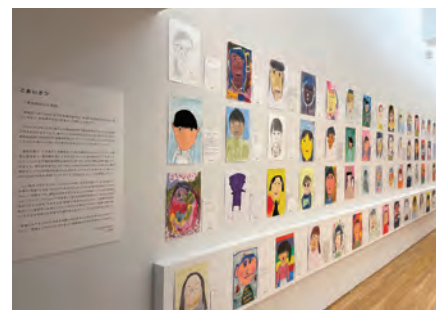


顔を描くことで
新たな自分に気づき、
描かれた顔に
向き合うことで
心が癒される

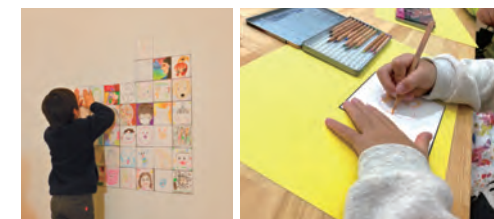
● 船内イベント



● 造形スタジオでの作品展示



● オープンワークショップ「顔を描いてつなごう！」



まちのシューレ963 プロデュース

MIMOCAマルシェ

地元・香川を中心とした瀬戸内の食品や雑貨を販売するお店を集め、
9月は「キッズマルシェ」、11月は「MIMOCAマルシェ」と題した
1日限りのマルシェを開催しました。

ゲートプラザで“楽しいもの・美味しいもの”と出会い、ゆるやかな交流が生まれました。



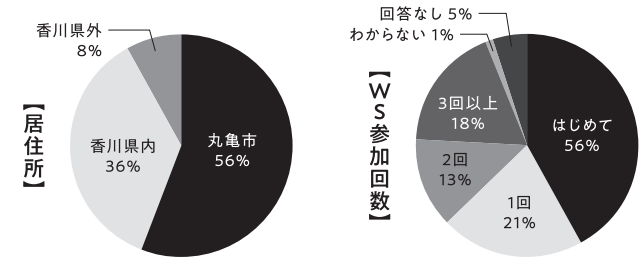
人々が出会い、
繋がる場所。
賑やかで楽しい声
美術館に広がる

《分析》

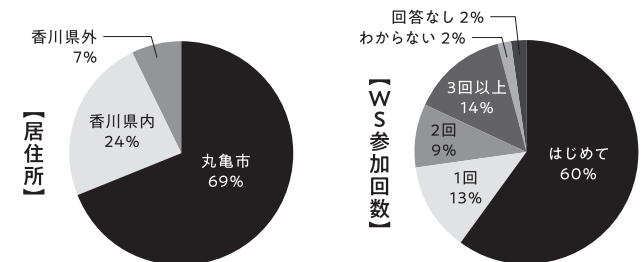
「子どもMIMOCA」では、造形スタジオ事業の開催にあたり応募者に居住地とこれまでのワークショップ参加経験の有無をヒアリングしました。一部をグラフで提示します。

工学ワークショップでは特殊なジャンルかつ夏休み期間中ということもあり、大阪や兵庫、岡山など香川県外からもご応募いただきました。一方、パフォーマンスワークショップは美術館での成果発表に繋がるため、地元・丸亀市民からの積極的な参加が見受けられました。

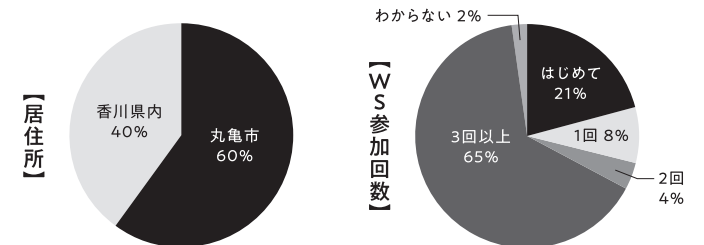
Color MIMOCA! (ジャンル：美術)



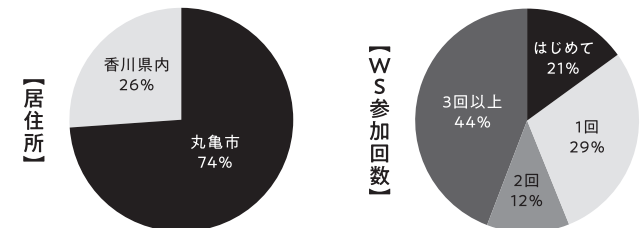
工学博士と 建築をつくろう (ジャンル：工学)



オーケストラ メンバー募集! (ジャンル：音楽)



レッツJUMP!! キッズパフォーマー 募集! (ジャンル：ダンス)



事業名	講師	対象	開催日時	参加者／入場者	協力
みんなでつくろう!宇宙都市	MIMOCA職員	高校生以下	2022/4/12、4/13、4/14、4/15 各日14:00-16:00 4/16、4/17 各日10:30-11:30/14:00-15:00	参加者25名	
「みんなでつくろう!宇宙都市」作品展示		どなたでも	2022/4/2-4/10	入場者数210名	
瀬戸内国際芸術祭2022 記念事業 "MIMOCA×tupera tupera 巨大すごろくプロジェクト" 関連企画 すごろくマスづくりワークショップ	tupera tupera	小学生~大人	2022/5/5 10:00-12:30/14:00-16:30	参加者73名	
左官職人になろう!2022	香川県 左官業組合連合会 会長 玉木隆好	小学生~高校生	2022/5/14、5/15 各日10:30-12:00/14:00-15:30	参加者61名	香川県左官業組合連合会、 四国化成ホールディングス株式会社
Color MIMOCA!	MIMOCA職員	どなたでも	2022/6/11、6/12、6/18、6/19、6/25、6/26、 7/2、7/3、7/18、7/23、7/31、8/6、11/27、12/3 各日10:30-12:00/14:00-15:30	参加者226名	善通寺希望の家
工学博士と建築をつくろう	香川大学名誉教授 工学博士 松島学	午前:小学生~高校生 午後:小学3年生~大人	2022/8/13、8/14 各日10:30-12:00/14:00-15:30	参加者40名	
オーケストラメンバー募集!	瀬戸フィルハーモニー 交響楽団	小学生~高校生	2022/9/10、9/11 各日10:30-14:00 9/18 10:30-12:00 9/24 12:00-13:30 演奏本番 9/24 12:30-13:00	参加者44名	
レッツJUMP!! キッズパフォーマー募集!	んまつーポス	小学生~高校生	2022/10/10、10/12、10/15 上演本番 11/23 11:00-11:30/13:00-13:30	10月:参加者22名 11月:参加者15名	
ふるふる!フルイドアート ~自分だけの色と模様をつくろう~	MIMOCA職員	小学生~高校生	2023/1/22 10:30-12:00/14:00-15:30	参加者35名	
「ビフォアミモカ」公開		どなたでも	2022/05/20-	再生回数132,979回 (2023年2月末時点)	
「ビフォアミモカ」トークイベント	井上涼	どなたでも	2022/05/29 13:00-14:15	120名	
学校来館		高校生以下	2022/4/1-2023/3/31	18団体 796名 (2023年2月末時点)	
こどもMIMOCA アーティスト派遣ワークショップ	んまつーポス		2022/10/11、10/14	約130名	訪問先:丸亀少女の家/ 丸亀市立郡家小学校

※主催は全て丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団

事業名	開催日時	場所	参加者／入場者	主催／共催
瀬戸内国際芸術祭2022記念事業 MIMOCA×tepera tupera スゴ!すごろくプロジェクト 丸亀市通町商店街編	2022/9/24、9/25、10/1、10/2、10/8、 10/16、10/22、11/3、11/5、11/6 各日10:00-16:00 ※9月24日(土)のみ13:30-16:00	丸亀市通町商店街	参加者約1,800名	[主催] 丸亀市、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、 公益財団法人ミモカ美術振興財団 [協力] 丸亀市通町商店街振興組合 [後援] 瀬戸内国際芸術祭実行委員会
NHK かがわ絵顔プロジェクト2022	[関連イベント] 2022/10/9、10/23 [展示] 2022/2/3-3/5 [オープンワークショップ] 2022/2/4、2/12、 2/18-3/5	[関連イベント] 四国汽船 なおしま船内 [展示] 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 造形スタジオ	[関連イベント] 217名 [展示] 約1,700名 [オープンワークショップ] 230名	[主催] NHK高松放送局、 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、 公益財団法人ミモカ美術振興財団
まちのシューレ963 プロデュース MIMOCAマルシェ	[キッズマルシェ] 2022/9/24 [MIMOCAマルシェ] 2022/11/23	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 ゲートプラザ	各日の入場者 約1,500名	[主催] 丸亀市、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、 公益財団法人ミモカ美術振興財団、 丸亀市文化振興事業協議会

何にでも、今ある目にとどく物でありふれた物に、
もう一度キュアリオシティ (curiosity = 好奇心) の目を開いて、
そして物をもう一度考えて下さい。
手近なものの中に美しさもありますし、
あらゆる秘密が隠されております。*

猪熊弦一郎

編集：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館／公益財団法人ミモカ美術振興財団
デザイン：株式会社アルファ
撮影：福田ジン (pp.6-7、pp.16-17、pp.30-33、p.36)

発行：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館／公益財団法人ミモカ美術振興財団
〒763-0022 香川県丸亀市浜町80-1
Tel.0877-24-7755
Fax.0877-24-7766
Mail mimoca_info@mimoca.jp
www.mimoca.org